

令和7年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 東朽網 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、算数、理科）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月18日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数、理科）

教科に関する調査（国語、算数、理科）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問調査

児童質問調査
○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

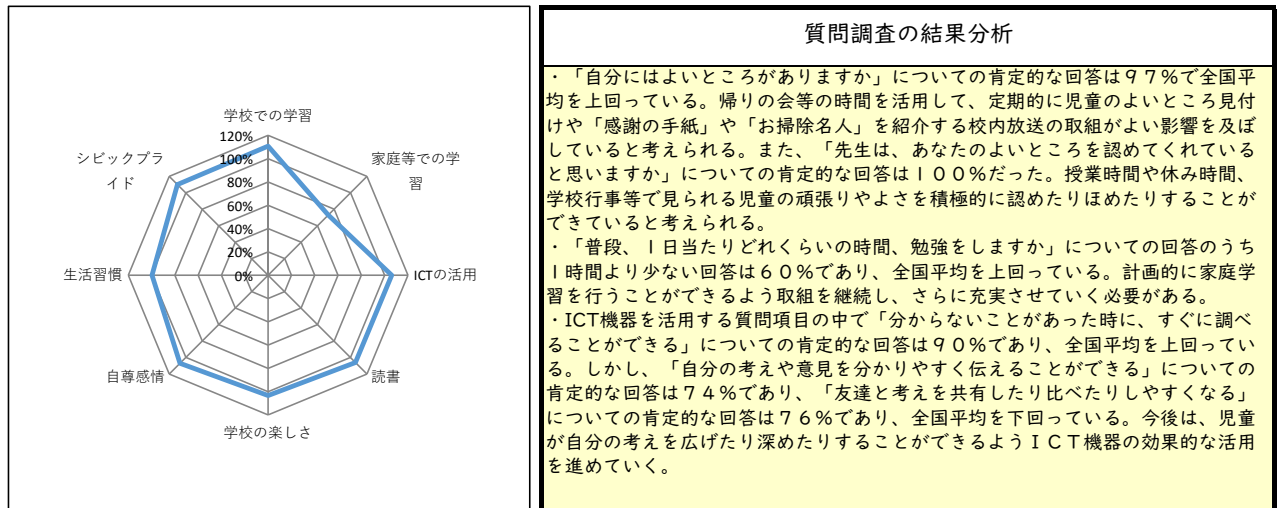
(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数、理科）の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	8.6	54	9.1	53
全国	9.4	67	9.3	58	9.7	57

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	「言葉の特徴や使い方に関する事項」、「情報の扱い方に関する事項」の知識・技能をみる問題の平均正答率は全国平均を上回る、もしくは同程度であり、成果が見られた。 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」領域の思考力・判断力・表現力をみる問題の平均正答率は全国平均を下回っており、課題が見られた。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	「情報の扱い方に関する事項」：情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使う問題 「言葉の特徴や使い方に関する事項」：漢字を文の中で正しく使う問題	下回っている
	努力が必要な問題	「話すこと・聞くこと」領域：自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉える問題 「我が国の言語文化に関する事項」：時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く問題	
算数	全体的な傾向や特徴など	「測定」、「変化と関係」領域の平均正答率は全国平均を上回っており、成果が見られた。一方で、「数と計算」、「図形」、「データの活用」の平均正答率は全国平均を下回っており、課題が見られた。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	「測定」領域：はかりの目盛りを読む問題 「変化と関係」領域：伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述する問題	下回っている
	努力が必要な問題	「数と計算」領域：分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述する問題 「図形」領域：基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述する問題	
理科	全体的な傾向や特徴など	「エネルギー」、「粒子」を柱とする領域の問題の平均正答率は全国平均を上回る、もしくは同程度であり、成果が見られた。 「生命」、「地球」を柱とする領域の問題の平均正答率は全国平均を下回っており、課題が見られた。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	「エネルギー」を柱とする領域：電気の回路のつくり方について、実験の方法を発想し、表現する問題 「粒子」を柱とする領域：水の温まり方について、問題に対するまとめを導きだす際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現する問題	下回っている
	努力が必要な問題	「生命」を柱とする領域：顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能が身に付いているかをみる問題 「地球」を柱とする領域：赤土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、結果を基に結論を導いた理由を表現する問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



全国平均を100としたときの本校の割合

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・児童が自分の考えを広げたり深めたりすることができるよう、タブレット端末を効果的に活用する。そのために職員研修を通して、タブレット端末の活用方法を共有し、発達段階に応じたICT活用を進めていく。
・チャレンジタイム（補充学習）を通して、「数と計算」、「図形」領域の算数科の問題に取り組む。また、自己の課題に応じて学習を進めることができるようにする。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・計画的に家庭学習に取り組むことができるよう、学年ごとに家庭学習の時間を設定し、学習内容等を啓発する。
・規則的で健康的な毎日を過ごせるように、早寝早起き朝ご飯の実践、十分な睡眠時間の確保について学年通信や保健だよりを活用して啓発を推進する。